

共同研究成果報告書

作成日 平成 22年 6月 23日

| | | | | | | |
|---------------|--|-----------|----------------|---------|-----------|---------|
| 研究課題名 | 近世後期小説の様式的把握のための基礎研究 | | | | | |
| 所属研究部局 ・職名 | 文学資源研究系 | ふりがな | おおたか ようじ | | | |
| | ・教授 | 研究代表者氏名 | 大 高 洋 司 | | | |
| 研究形態 | 1. 基幹研究 2. 共同研究 (3.) プロジェクト研究 4. その他 () | | | | | |
| 研究の位置づけ | (1.) 中期目標・中期計画に記載 2. その他 () | | | | | |
| 研究期間 | 平成16年度～平成21年度 | | 6年計画の第6年次 | | | |
| 研究経費 | 年 度 | 研究経費 | 経 費 内 訳 (単位:円) | | | |
| | | | 物品費 | 旅 費 | 謝金等 | その他 |
| | 平成16年度 | 1,520,355 | 0 | 873,240 | 0 | 647,115 |
| | 平成17年度 | 2,169,893 | 684,325 | 937,400 | 225,150 | 323,018 |
| | 平成18年度 | 1,181,860 | 38,850 | 938,260 | 99,750 | 105,000 |
| | 平成19年度 | 1,172,660 | 172,830 | 998,180 | 0 | 1,650 |
| | 平成20年度 | 1,105,205 | 409,965 | 395,040 | 300,200 | 0 |
| | 平成21年度 | 1,176,680 | 16,590 | 797,840 | 0 | 362,250 |
| 総 計 | 8,326,653 | 1,322,560 | 4,939,960 | 625,100 | 1,439,033 | |

| 研究組織 | | | | |
|---------|---------------------|-------|--------------|--------------|
| 氏 名 | 所属機関・部局・職名 | 現在の専門 | 役 割 分 担 | エフオート (%) |
| (研究代表者) | | | | |
| 大高 洋司 | 文学資源研究系・教授 | 近世小説 | 全体の統括 | 15 |
| (研究分担者) | | | | |
| 飯倉 洋一 | 大阪大学・大学院文学研究科・教授 | 近世小説 | 読本チーム | 10 |
| 井上 泰至 | 防衛大学校・人間文化学科・准教授 | 近世小説 | 人情本チーム | 10 |
| 大屋 多詠子 | 青山学院大学・文学部日本文学科・准教授 | 近世小説 | 読本チーム | 10 |
| 勝又 基 | 明星大学・人文学部・准教授 | 近世小説 | 実録チーム | 10 |
| 菊池 庸介 | 学習院大学・文学部・非常勤講師 | 近世小説 | 読本・実録チーム | 10 |
| 木越 俊介 | 山口県立大学・国際文化学部・准教授 | 近世小説 | 読本・人情本チーム | 10 |
| 近藤 瑞木 | 首都大学東京・人文科学研究科・助教 | 近世小説 | 読本・実録チーム | 10 |
| 鈴木 圭一 | 神奈川県立川崎北高等学校・教諭 | 近世小説 | 人情本チーム | 10 |
| 高橋 圭一 | 大阪大谷大学・文学部・教授 | 近世小説 | 実録チーム | 10 |
| 田中 則雄 | 島根大学・法文学部・教授 | 近世小説 | 読本チーム | 10 |
| 津田 眞弓 | 慶應義塾大学・経済学部・教授 | 近世小説 | 人情本チーム | 10 |
| 浜田 啓介 | 花園大学・文学部・客員教授 | 近世小説 | 研究内容全般にわたる助言 | 10 |
| 檜山 裕子 | 青山学院高等部・国語科・非常勤講師 | 近世小説 | 人情本チーム | 10 |
| 藤沢 毅 | 尾道大学・芸術文化学部・教授 | 近世小説 | 読本・実録チーム | 10 |
| 二又 淳 | 明治大学・法学部・非常勤講師 | 近世小説 | 人情本チーム | 10 |
| 山本 誠 | 静岡県立科学技術高等学校・教諭 | 近世小説 | 人情本チーム | 10 |
| 山本 卓 | 関西大学・文学部・教授 | 近世小説 | 読本・実録チーム | 10 |
| 菱岡 憲司 | 有明工業高等専門学校・助教 | 近世小説 | 読本チーム | 10 |
| 湯浅 佳子 | 東京学芸大学・教育学部・准教授 | 近世小説 | 読本チーム | 10 |
| (研究補助者) | | | | |
| 藤井 史果 | 文学資源研究系・リサーチアシスタント | 近世小説 | データ整理 | |
| 合計 21名 | | | | |

【概要（背景と目的）】

- ・「背景」と「目的」は、概要の中に入れて記入している場合は、特立して記す必要はありません。
- ・半頁以上、1頁以内で記入して下さい。
- ・【全体の研究成果】等他の記入欄と同内容のことを書かざるを得ない場合でも、他の記入欄と数行にわたって同一内容（成果出版物の目次を記す等）になるような記入はしないで下さい。

プロジェクト研究「近世後期小説の様式的把握のための基礎研究」（代表者：大高洋司）は、平成16～21年度の6年間にわたり実施された。

本研究では、近世後期小説の中心ジャンルである「読本（よみほん）」、その一部と見なされる〈中本もの〉読本と関係の深い「人情本」、また両者に隣接して多くの素材を提供した写本の「実録（実録体小説）」が、互いに関係し合いながら、広義の〈よみほん〉として制作・享受される様相について検討した。その際、特に「読本」・「人情本」については、ジャンルに固有の様式がどのようにして形成され、展開したのか、外型・内容の両面から諸特徴を抽出することにつとめた。

本研究の背景として、平成15年に当時戸越にあった国文学研究資料館（以下国文研）で開催された「八戸市立図書館所蔵『読本（よみほん）』展」（10月8～24日）がある。国文研の設立当初から調査収集を通じて深い関係を持つ同図書館の全面的な協力を得て大名家である南部家旧蔵の「読本」112点中65点を、初めて東京で展示したもので、本研究は、この時の実績を土台として、さらに一步を進めることを意図したものである。また今回は、同図書館所蔵の「実録」28点についても研究対象に加えることにした。

「人情本」については、平成14年に行われた公募型共同研究「人情本の所在調査」が出発点である。この時は「人情本」の悉皆調査の可能性を検討したが、公的機関に本ジャンルの所蔵がきわめて少ないことの確認に止まったので、改めて様式の観点から他ジャンルと擦り合わせることを意図して本研究に組み込んだ（なお当初は同じ外型を有する「滑稽本」についても扱う予定であったが、数量的な負担を考慮して除外した）。

プロジェクトのメンバーは、6年間に多少の出入りはあったが、個人的な研究対象としても「読本」「人情本」「実録」3ジャンルに取り組むほぼ20名の研究者である。また資料については、国文研所蔵のマイクロ・原本資料はもとより、八戸市立図書館から、南部家旧蔵の「読本」112点に加え、「実録」28点の使用をお許しいただいたことが研究の充実に結び付いた。同図書館にはメンバーによる共同調査を重ね、同時期進行の科学研究費補助金基盤研究（B）「近世後期江戸・上方小説における相互交流の研究」の経費により、関連作業として必要箇所のデジタル撮影を行った。さらに「人情本」については、メンバーが個人的に収集した原本資料の提供を受けて、研究レベルは飛躍的に向上することとなった。

その結果、平成19年度末に最初の成果である『読本事典 江戸の伝奇小説』（笠間書院）を刊行することができ、22年度末には、『人情本事典 江戸文政期、娘たちの小説』（笠間書院）・『八戸市立図書館所蔵／南部家旧蔵本 実録解題』（報告書）を刊行して本研究の締め括りとした外、専門誌「江戸文学」40号にメンバーの成果論文を掲載し、立川の国文研展示室において、特に若いメンバーの助力を得て、成果展示（9月25日～10月23日）を開催した。

[全体の研究成果]

・この欄に、全ての出版物を並べて記入しないようにして下さい。出版物の一部分を記入することは構いませんが、成果物の一覧は、[成果出版物・論文等]の欄に記入して下さい。
・半頁以上、1頁以内で記入して下さい。

1. 共同研究会

年度ごとの研究成果は、原則夏・冬に2回、2日ずつ開催した共同研究会を通じて共有した。1回に4、5名の口頭発表（ゲストスピーカーを含む）、会場における新収の関係原本の展示を常としたが、総研大生のみならず、院生クラスのオブザーバー参加者が、最後まで途切れることがなかったことを、特に記しておきたい。

2. 解題集の作成

具体的な資料から様式的特徴を抽出し、またその特徴を整理・共有しつつ他の資料の理解に応用してゆく作業を重ねながら、本プロジェクトが最終的に目指したのは、共同研究を通じて得た新しい理解を反映した解題集の作成である。この目標は、①『読本事典 江戸の伝奇小説』（笠間書院 平成20年2月）・②『人情本事典 江戸文政期、娘たちの小説』（同 平成22年1月）・③『八戸市立図書館所蔵／南部家旧蔵本 実録解題』（報告書 平成22年2月）の刊行によって達成することができた。

①は国文研と八戸市立図書館の共編で、南部家旧蔵の善本を十分に生かし、②は国文研をはじめ公的機関の所蔵資料ももちろん含まれるが、メンバーの協力の賜物である。①は解題の直接の対象とした作品が読本の全点数のほぼ一割に止まり、②は為永春水を中心とする天保期以後の人情本を直接の対象としなかったのにもかかわらず、共に書名を「事典」としたことに対する批判もあるが、幸い世に迎えられ、新聞等でも好意的に紹介されたのは有難いことであった。③は、①・②と異なり商業的な出版物ではないが、主要な作も多く含んでおり、第一線の研究者によってまとめられた実録解題のモデルとして、今後の範を示すものである。

3. 論文・展示

「江戸文学」40号「【特集】〈よみほん様式〉考」（ぺりかん社 平成21年5月）に、プロジェクトとして到達した様式論を踏まえた論文数本を掲載、その他、展示「江戸の長編読みもの―読本・実録・人情本―」（9月25日～10月23日 国文学研究資料館展示室）において、上記の研究を支えた資料延べ90点ほどを展観した。

【成果出版物・論文等】

- ・年次順に分けずに、【出版物】、【論文】、【その他（学会発表）（公開データベース）等】の区分で記入して下さい。記入内容は、出版物の場合は、書名（平成□□年□月、□□書房、全□□□頁）、内容（執筆者名、論文名）とし、論文の場合は、執筆者名、論文名、掲載誌名、巻号、最初と最後の頁、発表年月、査読の有無を原則とします。
- ・論文名は「 」に、書名・雑誌名は『 』に入れるのを原則とします。
- ・論文名や学会発表、データベース名は、一件ごとに「・」や①②③…を使って区別しやすいように記入して下さい。
- ・データベースは公開されているもののみ記載して下さい。

【出版物】

『読本事典 江戸の伝奇小説』（平成 20 年 2 月 笠間書院 全 178 頁）

内容：

口絵図版・序（松野陽一・河村忠治）・凡例・はじめに－出版までの経緯（大高洋司）

I 読本の形成

- I－i 〈初期読本〉の時代：概説・解題（6 点）
- I－ii 上方＝〈絵本もの〉読本の広がり：概説・解題（7 点）
- I－iii 『絵本太閤記』：概説・解題
- I－iv 江戸＝〈中本もの〉読本の位置：概説・解題（5 点）
- I－v 江戸＝京伝・馬琴と〈稗史もの〉読本の形成：概説・解題（9 点）
- I－vi 初印本と後印本－『優曇華物語』を例に－：解題（3 点）

II 読本の展開（その一）

- II－i 江戸＝〈稗史もの〉読本の流行と馬琴：概説・解題（21 点）
- II－ii 小枝繁：概説・解題（6 点）
- II－iii 『南総里見八犬伝』：概説・解題
- II－iv 上方＝江戸風との融合：概説・解題（12 点）

III 読本の展開（その二）

- III－i 江戸・上方の提携：概説・解題（7 点）
- III－ii 江戸＝為永春水の読本：概説・解題（7 点）

読本略年表・口絵図版解説、書誌・謝辞

執筆者：飯倉洋一・大高洋司・大屋多詠子・菊池庸介・木越俊介・金時徳・近藤瑞木・田中則雄・濱田啓介・藤澤毅・山本卓・湯浅佳子

『人情本事典 江戸文政期、娘たちの小説』（平成 22 年 1 月 笠間書院 全 232 頁）

内容：

本書刊行の経緯（大高洋司）・本書を読まれる方へ・凡例

人情本の魅力－一九世紀江戸の落とし物－文政期の人情本－さまざまな可能性を秘めた作品群－

I 人情本の発生

- I－1 自覚なき先駆者・十返舎一九：解題 3 点
- I－2 写本から板本へ－人情本の“種”：解題 4 点
- I－3 廓をめぐる貴種流離－洒落本から人情本へ：解題 13 点

II ジャンルの増埒

- II－1 読本との連続・断絶：解題 8 点
- II－2 演劇・音曲との共鳴：解題 12 点
- II－3 舌耕との接点：解題 5 点

III 楚満人・鼻山人の時代－量産される作品群

- III－1 “春水”以前－〈中本〉の第一人者を目指して：解題 9 点
- III－2 楚満人の周辺：解題 10 点
- III－3 武家・廓・怪異－鼻山人の世界：解題 14 点
- III－4 文政期の傍系作者－現存希少作品の素顔：解題 3 点

恋愛小説への開花—天保期の人情本へ

人情本略年表・人情本文献目録・図版所蔵先一覧・所収作品索引・〈書誌項目〉人名索引・書肆索引

執筆者：井上泰至・木越俊介・鈴木圭一・津田眞弓・檜山裕子・二又淳・山杳誠

「八戸市立図書館所蔵／南部家旧蔵本 実録解題」（平成 22 年 2 月 国文研 全 118 頁）

内容：発行の辞（大高洋司）・凡例・解題（28 点）・後記

執筆者：勝又基・菊池庸介・小二田誠二・高橋圭一・藤沢毅・山本卓

【論文】

濱田啓介「読本に関わる文体論詩論」、『江戸文学』（ぺりかん社），40，pp6-27，平成 21・5，査読無

中嶋隆「「読本」としての西鶴本」，同上，pp28-37

井上泰至「読本の時代設定を生み出したもの」，同上，pp38-46

藤沢毅「読本の書式」，同上，pp47-50

木越俊介「人情本の外濠—文政年間中本の一考察」，同上，pp110-129

[展示・シンポジウム]

(展示)

タイトル、会期（期間）、会場、入場者概数

(シンポジウム・講演会)

タイトル、期日、会場、参加人数概数、個別発表者名・講演者名、個別発表・講演タイトル

展示に付随した講演などは、頭に「*」を付して展示の項に註記しても構いません。

(展示)

「江戸の長編読みもの一読本・実録・人情本」、平成 22 年 9 月 25 日～10 月 23 日、国文学
研究資料館展示室、503 名

【研究会・資料調査】

年度毎に分けて日付順に研究会と資料調査を別々に記入して下さい。(研究打合せは記入しないこと。)

【平成〇〇年度】

(研究会)

期日、会場、発表者(報告者)とタイトル

(資料調査)

期日、調査先

【平成 16年度】

(研究会)

第1回共同研究会 8月3日、国文学研究資料館
木越俊介「地本から書物へー文政期中本型読本の展開」

第2回共同研究会 12月21日、国文学研究資料館

小二田誠二「実録における「構想」意識」

(資料調査)

第1回八戸市立図書館共同調査(7月31日～8月2日)・第2回八戸市立図書館共同調査(平成17年3月10～12日)

【平成 17年度】

(研究会)

第1回共同研究会 7月26日、国文学研究資料館

檜山裕子「写本型の人情本について」

二又 淳「人情本の書誌調査から」

第2回共同研究会 7月26日、国文学研究資料館

山本 誠「泣本・人情本」

高橋圭一「『泰平真撰 難波秘録 本朝盛衰記』についてー長い長い実録に関する短い報告ー」

【平成 18年度】

(研究会)

第1回共同研究会(第1日) 8月1日、国文学研究資料館

菊池庸介「実録から絵本読本へー速水春暁斎の作品を例にー」

大高洋司「〈稗史もの〉読本の様式形成と『桜姫全伝曙草紙』」

第1回共同研究会(第2日) 8月2日、同上

鈴木圭一「梅暦の読本的趣向と読本離れ」

第2回共同研究会(第1日) 平成19年1月7日、国文学研究資料館

藤沢毅「外形的書式(書式)と内容的書式(様式)」

田中則雄「読本における「上方風」とは何か」

第2回共同研究会(第2日) 平成19年1月7日、同上

山本 卓「『絵本宇多源氏』をめぐってー絵本読本誕生の頃ー」

【平成 19年度】

(研究会)

第1回共同研究会(第1日) 7月28日、国文学研究資料館

木越俊介「『奇談情之二筋道』についてー文政期における読本解題本をめぐってー」

津田真弓「中本作者としての鼻山人の文政期」

第1回共同研究会(第2日) 7月29日、同上

濱田啓介「文体論試論」

第2回共同研究会(第1日) 12月22日、国文学研究資料館

近藤瑞木「滑稽怪談の展開ー浮世草子から草双紙へ」

第2回共同研究会(第2日) 12月23日、同上

井上泰至「天保期春水人情本と女性読者の規範ー古典啓蒙書・女訓書・現世利益信仰との関係ー」

湯浅佳子「『宿直草』と『諸国百物語』ー近世説話の展開ー」

【平成 20年度】

(研究会)

共同研究会(第1日) 平成21年1月10日、国文学研究資料館

藤川玲満「国文学研究資料館蔵『秋里家譜』について」

紅林健志「『本朝水滸伝』改題考」

共同研究会(第2日) 平成21年1月11日、同上

勝又 基「敵討実録について」

中嶋 隆 「「読本」としての『好色一代男』－様式と文体の視点から－」

【平成 21年度】

(研究会)

第1回共同研究会（第1日） 8月25日、国文学研究資料館

木越俊介 「文政期人情本における様式とジャンル－『人情本事典』作成を通して－」

鈴木圭一 「文政期人情本について－『寝覚繰言』を例として」

第1回共同研究会（第2日） 8月26日、同上

山本 卓 「書記小説－舌耕の可能性」

第2回共同研究会（第1日） 12月5日、国文学研究資料館

大屋多詠子 「近松の「因果」と馬琴」

大高洋司 「『双蝶記』追考－構想と主題－」

第2回共同研究会（第2日） 12月6日、同上

菱岡憲司 「傀儡子から魁薔子へ－馬琴異称に見る執筆態度の変化－」

濱田啓介 「二行小書文体の形成－ト書き系文学群成立論のために－」